

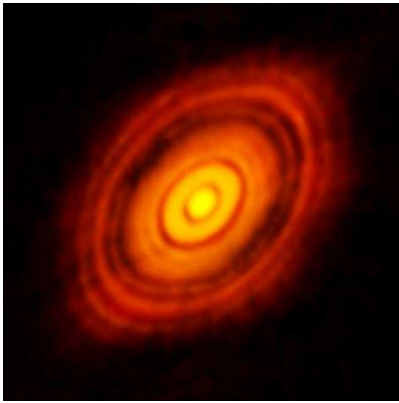
平成 27 年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 27-8-1)

施策名	学術研究の振興
施策の概要	研究者の自由な発想に基づく学術研究について、新しい知を生み続ける重厚な知的蓄積を形成することを目指し、萌芽段階からの多様な研究や時流に流されない普遍的な知の探求を長期的視点の下で振興する。

達成目標 1	我が国の研究力強化を促進するため、大学・大学共同利用機関における共同利用・共同研究体制等を活用した独創的・先端的研究の推進や研究環境の整備を行うとともに、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強する。		
達成目標 1 の設定根拠	学術研究を振興するためには、個々の大学の枠を越え、全国の研究者の知を結集し、効率的・効果的な先端研究を展開してきた共同利用・共同研究体制等が重要であり、本体制を構築する国公私立大学の共同利用・共同研究拠点（大臣認定）や国立大学法人法に基づき設置される大学共同利用機関等を強化しつつ、我が国の強み・特色を生かした研究水準の向上及び均衡ある発展を図る必要があるため。		
成果指標 (アウトカム)	基準	一年度	—
①独創的・先端的研究の推進により生まれた成果の状況	進捗状況	24 年度	<p>(アルマ望遠鏡) 国立天文台などの大学共同利用機関は個々の大学では整備できない大規模な施設・設備や大量のデータ・貴重な資料等を、全国の大学の研究者に提供し、我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図っている。例えば、国立天文台が有する、日・米・欧の国際共同プロジェクトにより建設された、世界最大級の電波望遠鏡であるアルマ望遠鏡は、平成 25 年 3 月の本格運用開始前に、既に完成している一部の装置を用いて行った「初期科学観測」において、生命に密接に関連する最も単純な糖類分子であるグリコールアルデヒドをへびつかい座の若い星の周囲で発見。惑星形成領域での糖類分子の発見は初めてであり、惑星系での有機物の合成や生命の起源を探る上で重要な手掛かりになることが期待される。</p>
		25 年度	<p>(すばる望遠鏡) 国立天文台などの大学共同利用機関は個々の大学では整備できない大規模な施設・設備や大量のデータ・貴重な資料等を、全国の大学の研究者に提供し、我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図っている。例えば、国立天文台が有する、単一鏡としては世界最大級の口径 8.2m という大きさを誇り、高い集光力を有する光学赤外線望遠鏡であるすばる望遠鏡は、地球から約 60 光年離れた太陽と似た恒星の遠方にある「第二の木星」と呼べる系外惑星の直接観測に成功。太陽系ではこのような遠方に惑星を形成することは難しいため、今回の観測データを検証することは、今後の、太陽や地球のような惑星系がいかんして形成されたかを理解するための重要な手掛かりになることが期待される。</p>
		26 年度	<p>(アルマ望遠鏡) 国立天文台などの大学共同利用機関は個々の大学では整備できない大規模な施設・設備や大量のデータ・貴重な資料等を、全国の大学の研究者に提供し、我が国の学術研究の向上と均衡ある発展を図っている。例えば、国立天文台が有する、日・米・欧の国際共同プロジェクトにより建設された、世界最大級の電波望遠鏡であるアルマ望遠鏡は、平成 26 年 11 月に、おうし座の方向にある若い星（約 450 光年の距離）の周囲にある塵（ちり）の円盤を観測し、「視力 2000」に相当する世界最高の解像度で惑星の誕生現場を鮮明に撮影。円盤の中にある溝は、構成の周りの物質を掃き集めながら大きな惑星が成長する証拠だと考えられており、今後、地球のような生命の住む惑星などの形成過程を理解するための重要な手掛かりになり、更には宇宙における生命の起源の解明につながることを期待される。</p>

	目標	毎年度	我が国の学術研究の発展に資する画期的な成果の創出				
	目標の設定根拠	独創的・先端的な研究の推進により生まれた最先端の成果については定量的に示すことが困難であるため、我が国の学術研究の発展に資する画期的な成果の創出を目標値として設定している。					
②「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」によって 発出された論文数	基準値	実績値					目標値
	一年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	毎年度
	—	350本	415本	496本	618本	623本	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	本事業は、新たに文部科学大臣認定を受けた共同利用・共同研究拠点を対象に、拠点としての環境や体制の整備に係るスタートアップのための支援を行うものであり、事業の進捗に伴って、拠点活動の一層の推進が期待されるため。					
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	一年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	毎年度
①特別経費（学術研究）による研究事業の進捗状況（特別経費進捗状況報告書における事業ごとの4段階評価の平均値）	—	3.3	3.3	3.4	3.4	調査中（H28年1月頃予定）	4段階評価の平均値が3以上
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	<p>大学・大学共同利用機関における共同利用・共同研究体制等を活用した独創的・先端的基礎研究の推進などは、長期的視点の下、研究事業を計画どおり進展させ着実に成果を上げていくことが重要であることから、「4段階評価の平均が3以上」という目標値も設定している。</p> <p>【参考：評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施計画以上の成果が得られている・・・4 ○実施計画どおり進展している・・・3 ○実施計画どおり進展していない・・・2 ○実施計画を実施していない・・・1 					
②「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」における 研究拠点の共同利用・共同研究者数	基準値	実績値					目標値
	一年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	毎年度
	—	1,817人	1,785人	1,888人	2,785人	4,771人	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	本事業は、新たに文部科学大臣認定を受けた共同利用・共同研究拠点を対象に、拠点としての環境や体制の整備に係るスタートアップのための支援を行うものであり、事業の進捗に伴って、拠点活動の一層の推進が期待されるため。					
③「研究大学強化促進事業」における 研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーター等）の配置数	基準値	実績値					目標値
	25年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	29年度
	126	—	—	—	126	217	226
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	201	
	目標値の設定根拠	研究マネジメント人材の配置と研究環境改革を組み合わせた取組により、国際的な研究成果創出の状況等が上昇することが期待されることから、毎年度の確実な配置が求められる。					



アルマ望遠鏡が観測したおうし座 HL 星の周囲の塵の円盤。同心円状の細い環（わ）が幾重にも並んでいる様子がはっきりと見て取れる。



チリ・アタカマ高地にあるアルマ望遠鏡。宇宙空間にある星間物質（-260℃にも達する塵（ちり）やガス）を観測し、可視光や赤外線望遠鏡では見ることのできない宇宙の姿を明らかにする。

（写真は国立天文台提供）

参考指標	基準値	実績値				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①学術研究の大型プロジェクトへの外国人共同利用・研究者受入れ者数 （括弧書き上段は外国人研究者の割合、下段は対前年度伸び率）	—	—	—	2,497人 (33.4%) (-)	2,477人 (35.0%) (-1.0%)	2,481人 (34.4%) (±0%)
達成手段 (事業)						
名称 (開始年度)	平成 27 年度予算額 【百万円】		行政事業レビューシート番号			
国立大学法人運営費交付金に必要な経費 (平成 16 年度)	1,094,898 (うち特別会計(復興庁) 352)		0137			
国立大学法人先端研究推進費補助金 (平成 16 年度)	6,006		—			
大学が保管するアイヌの遺骨の返還に向けた手続き等に関する調査研究 (平成 27 年度)	10		新 27-0024			
特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 (平成 20 年度)	304		0208			
国立大学法人施設整備(大型特別機械整備費(最先端等)) (平成 16 年度)	2,869		0144			
学術研究機関調査支援事業 (平成 23 年度)	4.2		0203			
科学研究情報発信基盤の強化 (平成 23 年度)	9.7		0205			
日本学士院会員年金の支給等に必要な経費 (昭和 31 年度)	435.3		0210			
研究大学強化促進事業 (平成 25 年度)	6,209		0209			
平成 26 年度評価書 からの変更点	—					

達成目標 2	学術研究に関する科学研究費助成事業（科研費）について、人文学・社会科学から自然科学までのあらゆる研究分野への幅広い助成を行うとともに、制度の改革を着実に進めることにより、優れた研究成果の創出に寄与する。						
達成目標 2 の設定根拠	自由な発想に基づく多様な学術研究を支援するためには、科研費の改革・強化が不可欠であり、第 5 期科学技術基本計画に向けても改革・強化をより推進していく必要があるため。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	一年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	毎年度
①一般に公開されているデータベースに登録された、科研費による研究の成果へのアクセス数（検索数）	—	4,334,000 件	4,432,000 件	4,494,000 件	5,027,000 件	4,264,000 件	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	重厚な知的蓄積を形成するとともに、我が国全体の社会・経済や文化の発展に資するよう質の高い情報発信を図る。					
②科研費の使いやすさや、基金化の研究現場への影響に関する調査結果	基準値	実績値					目標値
	一年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
	—	4.8	4.5	4.9	5.2	5.3	5.5
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	第 4 期科学技術基本計画中の平成 23 年度～27 年度にわたり実施される科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査」（定点調査）において、5.5 以上が最も評価が高い「状況に問題はない」という指数解釈がなされているため。					
<p>※出典：科学技術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査」（定点調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年度から一貫して指数が上昇し、平成 22 年度ではほぼ問題のない状況となっている。科学技術システム定点調査の中で最も指数の上昇が顕著な質問である。 （※平成 23 年度以降）：科学技術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査」（定点調査） ・科学研究費助成事業（科研費）における研究費の使いやすさについては、平成 23 年度調査と比べて、使いやすさとの認識は毎年向上している。（※当該調査は、第 4 期基本計画期間中の平成 23 年度～平成 27 年度にわたって実施するものであり、平成 22 年度以前と平成 23 年度以後の単純な数値の比較はできない。） 							
③科研費の成果展開事例	基準	一年度	—				
	進捗状況	24 年度	年 4 回発行している「科研費 NEWS」の各号における事例紹介				
		25 年度	同「科研費 NEWS」の各号における事例紹介				
		26 年度	同「科研費 NEWS」の各号における事例紹介【注（5 ページを参照）】				
	目標	毎年度	人文・社会科学から自然科学までのあらゆる優れた研究成果を可視化するとともに、その創出に寄与する。				
目標の設定根拠	科研費が支援する学術研究は、①知的・文化的価値の創出・蓄積・継承・発展、②経済的・社会的・公共的価値の創出、③人材の養成・輩出の基盤、これらを通じた国際社会貢献などの役割を期待されており、結果として、ノーベル賞受賞に至る研究を 10～20 年のスパンで支えるとともに、我が国や人類にブレークスルーをもたらすようなアイデアや地域社会の経済に地道に貢献する研究を育てている。科研費では、こうした役割を踏まえ、研究者の創造性を最大限に引き出し、優れた研究成果の創出に寄与するものと考えられる。						
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	一年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	毎年度

① 科研費による研究の成果の数	—	16,375 件	19,674 件	20,275 件	21,951 件	22,638 件 ※平成 27 年 9 月時の暫定値	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	重厚な知的蓄積を形成するとともに、我が国全体の社会・経済や文化の発展に資する。					
② 複数年度にわたって研究費が使用できる改革（基金化）の対象となる研究課題の数	基準値	実績値					目標値
	—年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	毎年度
	—	—	20,216 件	42,360 件	58,257 件	63,475 件	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	
	目標値の設定根拠	より効果的・効率的な制度となるように改善を着実に進める。					
参考指標	実績値						
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度		
① 科研費採択件数	64,713 件	71,812 件	76,387 件	78,982 件	80,306 件		
② 科研費予算額	2,000 億円	2,633 億円 (助成額：2,204 億円)	2,566 億円 (助成額：2,307 億円)	2,381 億円 (助成額：2,318 億円)	2,276 億円 (助成額：2,305 億円)		
③ 科研費による論文数	130,778 件	147,405 件	147,814 件	調査中 (H28.4 月頃予定)	—		
参考指標	実績値						
	1996 年 -1998 年平均	2001 年 -2003 年平均	2006 年 -2008 年平均				
④ 日本の論文に占める Wos-KAKEN 論文の割合	35.7%	40.8%	47.3%				
⑤ 日本の 10%論文補正に占める Wos-KAKEN 論文の割合	53.1%	56.8%	62.4%				
施策・指標に関するグラフ・図等							
【※注 成果指標③：平成 26 年度科研費 NEWS に掲載された、科研費の成果展開事例】							
<ul style="list-style-type: none"> ・抗腫瘍物質ハリコンドリン B の単離・構造決定に基づく乳がん治療薬エリブリンの創出 ・外国人被災者への情報伝達に役立つ「やさしい日本語」の提言と「やさしい日本語」化のための言語資源の開発研究 ・材料科学と生命科学を加速する次世代型カップリング反応の開発 ・バキュロウイルスは宿主から獲得した遺伝子を使って宿主の行動を制御する ・浮力を利用する無動力かつ人的操作不要の津波・高潮対策フラップゲートの開発 ・会話コーパスのアノテーション手法の開発と対話の認知・伝達モデルの構築 ・社会的時差ぼけ診断及び時間医療の実現に向けた体内時計測定法 ・「もの」の見落としやすさを推定する画像認識システム 							
達成手段 (事業)							
名称 (開始年度)	平成 27 年度予算額 【百万円】			行政事業レビューシート番号			
科学研究費助成事業 (昭和 40 年度)	227,330			0207			
科学官の運営等 (平成 16 年度)	32.4			0204			

平成 26 年度評価書 からの変更点	—
-----------------------	---

施策の予算額・執行額					
(※政策評価調書に記載する予算額)					
		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度要求額
予算の状況 【千円】 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	当初予算	245,607,650 ほか復興庁一括計上 分 0	234,839,000 ほか復興庁一括計上 分 0	234,342,539 ほか復興庁一括計上 分 0	249,033,457 ほか復興庁一括計上 分 0
		<1,191,256,110> ほか復興庁一括計上 分<1,060,713>	<1,203,055,313> ほか復興庁一括計上 分<3,610,862>	<1,182,418,622> ほか復興庁一括計上 分<529,220>	<1,242,478,942> ほか復興庁一括計上 分<773,092>
	補正予算	Δ31,457 ほか復興庁一括計上 分 0	Δ32,507 ほか復興庁一括計上 分 0	0 ほか復興庁一括計上 分 0	
		<55,368,125> ほか復興庁一括計上 分<0>	<18,499,085> ほか復興庁一括計上 分<0>	<0> ほか復興庁一括計上 分<0>	
	繰越し等	5,195,760 ほか復興庁一括計上 分 0	2,063,653 ほか復興庁一括計上 分 0		
<133,133,917> ほか復興庁一括計上 分<0>		<105,690,638> ほか復興庁一括計上 分<0>			
合 計	250,771,953 ほか復興庁一括計上 分 0	236,870,146 ほか復興庁一括計上 分 0			
	<1,379,758,152> ほか復興庁一括計上 分<1,060,713>	<1,327,245,036> ほか復興庁一括計上 分<3,610,862>			
執行額 【千円】		250,630,769 ほか復興庁一括計上 分 0	236,838,043 ほか復興庁一括計上 分 0		
		<1,376,898,696> ほか復興庁一括計上 分<1,060,713>	<1,326,995,777> ほか復興庁一括計上 分<3,610,862>		
施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）					
名 称	年月日	関係部分抜粋			
—	—	—			
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報					
—					

有識者会議での 指摘事項	—
-----------------	---

主管課（課長名）	研究振興局 振興企画課（松尾 浩道）
関係課（課長名）	研究振興局 学術機関課（牛尾 則文） 研究振興局 学術研究助成課（鈴木 敏之）

評価実施予定時期	平成 29 年度、平成 32 年度
----------	-------------------